

西北の風

SEIHOKU NO KAZE Vol.11

早稲田大学
校友広報紙

発行：早稲田大学広報室広報課
〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104
TEL:03-3202-5454
FAX:03-3202-9435
http://www.waseda.jp/
E-mail:koho@list.waseda.jp

主な紙面

- 2~5 東日本大震災特集
- 6・7 研究成果の発信
- 9 “なでしこ”世界一に貢献
- 10 市川圓十郎特命教授講演へ
- 11 最古の能楽映像が判明
- 12・13 座談会・科学者の責任
- 14 早稲田の国際化戦略
- 15 鳴子・復興誓った温泉掘削
- 16 ワセダウーマン
- 17 校友会支部・稲門会一覧
- 18・19 校友会125周年
- 20 若手校友の活躍
- 21 校友人国記・相馬愛蔵
- 22・23 斎藤世代・完全燃焼
- 24 駅伝3冠・渡辺康幸監督

2010年11月5日、法学学術院の鎌田薫教授（63）が第16代早稲田大学総長に就任いたしました。就任後まもなくして発生した東日本大震災では学内に東日本大震災復興支援室を立ち上げ、被災学生や被災地域への支援、研究を通じた支援の陣頭指揮にあたっている鎌田総長。創立150周年を展望するビジョンにもふれながら、新総長のメッセージをお届けします。

未曾有の大震災

3月11日に発生した東日本大震災によって多数の尊い人命が犠牲となったことに對し、早稲田大学を代表して深く哀悼の意を表します。また、この未曾有の大災害およびその後の一連の地震や原発事故で被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げます。に、被災地域の安全の確保と一日も早い復興を衷心よりお祈りいたします。

東日本大震災によって、自然の力の大きさ、生命の尊さ、人の絆の有り難さなどを改めて思い知らされました。また、現代社会の豊かさ快適さは極めて微妙なバランスの上に成り立っており、それが容易に崩れてしまうものであることも学びました。

しかし、私たちはただ悲嘆にくれて沈み込んでいくわけにはいきません。早稲田大学は、自由で独創的な研究を通じて世界の学問に裨益すること（学問の独立）、学理を学理として究めるとともに、これを実際に応用する道を開くことで社会の発展に寄与すること

岩手・福島など被災地訪問

鎌田薫総長は7月2日と3日、岩手県や福島県などの被災地を訪れ、ボランティア活動をしている学生や地元校友の方々に激励しました。

【4面に関連記事】



のか、世界が注目しています。過去に何度も壊滅的な状況から立ち上がったきた日本です。人類の歴史の記念碑となるような復興を成し遂げなければならぬでしょう。

そのためには専門的な知識を蓄積して

（学問の活用）、個性を尊重して、社会に貢献し、広く世界で活躍する人格を養成すること（模範国民の造就）こそが、新しい時代を切り拓く要であるという理念の下で創設された大学です。

復興へ、大学の役割

東日本大震災による様々な被害は、原発事故を含め、被災地だけでなく日本全体の将来に問題を投げかけています。日本がいかにしてこの困難から立ち直る

鎌田薫 第16代総長

きた大学が、分かりやすく正しい情報を発信していかなくてはなりません。科学的な情報の提供を冷静に積み重ねていくことが、人々の生活に安心を与えることになるのです。

早稲田大学は、被災学生の就学支援、学生ボランティアの派遣、理系文系を問わない総合大学としての研究を通じて支援を行っています

卒業・入学式中止について

記念会堂で予定していました2010年度卒業式・大学院学位授与式および、2011年度の入学式については、東日本大震災による甚大な被害や計画停電による交通機関の混乱から当日の出席に多大な支障があることが予想され、また余震も活発に続いていた状況もあり、多数の卒業生・新入生が一堂に会することの危険性を無視することができないことに鑑み中止とさせていただきます。

共に学んだ仲間たち、教職員、ご家族などとともに、これまでの大学生活を振り返り、あるいは新しい人生の門出を祝福しあうことで、卒業・入学の感激を一層強く胸に刻み込むことを楽しみにしていたものと思います。学生生活の大きな思い出となったであろう卒業式・入学式をとりやめたことを、大変心苦しく思っていますが、卒業生・新入生が被災地の方々に思いを馳せ、社会で、キャンパスで、力強く羽ばたかれることを願っています。

広告協賛金は

学生支援基金に

校友広報紙「西北の風」に掲載いただいた広告協賛金は、全額を東日本大震災にて被災した学生への支援金とさせていただきます。

Waseda Vision 150

2008年度から2012年度までの施策方針「Waseda Next 125」。早稲田大学はいま、この方針を踏襲しつつ、2032年の創立150周年を展望する新しいビジョンを描いた「Waseda Vision 150」の策定に向け、準備を進めています。

現在のわが国は、政治の混迷や経済の停滞、少子高齢化などに加え、震災復興やエネルギーの問題にも直面しています。困難な時代に、大きな視野で方向性を提示し、牽引していく人材が求められているのです。

早稲田の杜に人が集まり、早稲田の杜で人が交わり、早稲田の杜から人が散じる。そして、いつでも早稲田の杜に戻ってくる。グローバルな人材の創出、循環が繰り返される大学となり、早稲田の研究が人類の知を拡充・組織化し、環境・貧困・災害等の地球的課題の解決に貢献することともに、異文化と共存した持続

危険や有事にも先頭に立って対応できるような強力なリーダーが、社会のあらゆる場面で必要とされている。大学が果たすべき役割は極めて大きいといえるでしょう。早稲田大学は、優れた能力と強いリーダーシップを備えた人材を育成しなければならぬという使命を、改めて強く自覚しているところです。

日本復興、新生早稲田



る校風の中、多様なバックグラウンドをもった学生が、個性豊かな教職員と相互に刺激し合いながら、研究・教育・文化・スポーツの幅広い分野で伸び伸びとその才能を伸ばしてきたことは、57万人にも及ぶ校友が多様な分野で活躍していることによって実証されています。

2010年度は1819名の海外派遣留学を実現し、4000名を超える外国人学生を受け入れて